日野川の源流と流域を守る会

会報

# ひのがわ

第42号

【日野川フォトコンテスト２０２２スマホ部門応募作品】
題　名：青春の１ページ　　撮影者：出浦　彰人 氏　撮影地：日野川水系　真住川

＝目　次＝


●設立20周年記念シンポジウム／20年間の活動の振返り …… 2～3
●日野川フォトコンテスト2022入賞作品紹介 …… 4
●会員の部屋／藤原自然保護監視員の季節の植物紹介 …… 5
●令和５年総会開催報告 …… 6
●令和４年森と水に親しむ補助金活用団体からの報告 …… 7
●令和５年イベント予定／会員募集 …… 8

# 設立20周年記念シンポジウム

令和４年12月３日（土）、米子コンベンションセンターにおいて、設立20周年を記念したシンポジウムを開催し、多くの方に参加いただきました。（株）中海テレビ放送に御協力いただき共催できたことで、当日の模様が「日野川物語」特別版として放映されるなど、多くの方々に当会の活動を知っていただくことができました。今後もこうしたＰＲ活動に取組んでいきたいと考えています。

印賀鋼のふるさとに広がる水田
（日南町大宮地区）

石村 隆男氏

とっとりコンベンションビューロー理事長石村隆男（いしむらたかお）氏による「日野川流域の風景が語りかけるもの」と題した講演では、母なる日野川によってもたらされた風景の持つ意味を語っていただきました。日野川流域は神話の時代からたたらを源とする独特な地形と流域文化が育まれ、その風景を読み解くことで、世界が広がり、ふるさとが魅力的に見えてくることが、石村氏のたくさんの写真から伝わってきました。そして、日野川と斐伊川流域を「たたら文化圏」として捉え、その環境や文化を積極的に地域活性化に活かしていく構想の提案には、多くの参加者が興味を持たれたようでした。

日野川を題材にした作品を解説中の廣池氏（右）

会場では、ソニーワールドフォトグラフィーアワード2020自然・野生生物分野で世界第２位を獲得されるなど、南部町在住で世界的な写真家、廣池昌弘（ひろいけまさひろ）氏の写真・映像を展示。日野川の魅力を捉えたホタルや滝などの写真は参加者の目を惹きつけました。

当日は廣池氏御本人にお越しいただき、日野川流域の自然や魅力を、作品の解説を通じてお話しいただきました。

パネルディスカッションでは、オシドリグループ事務局代表森田順子（もりたじゅんこ）氏のオシドリが運ぶ交流、鳥取環境大学の横田さんと友田さんの河川調査によって分かった日野川のゴミの状況、当会幹事長の達磨晋（だるますすむ）氏の日野川に来る野鳥の楽しみ方など、日野川に携わる方のそれぞれの思いを通じて、日野川の過去と未来に思いをはせ、美しい日野川を守り継いでいく気持ちを再確認した一日となりました。

森田 順子氏

鳥取環境大学
横田さん（左）友田さん（右）

達磨 晋氏

草月流の皆さんによる日野川をイメージした生け花。会場が華やかな雰囲気に包まれました。

# 「日野川の源流と流域を守る会」の20年を振り返って

幹事　矢田貝　繁明

「日野川の源流と流域を守る会」は、２００２年４月に設立され２０年を過ぎました。鳥取県西部を中国山地から美保湾に向け北上して流れる日野川は、古くから流域の人々の生活に深く関わるとともに多くの恩恵を与えています。現在の私たちに飲料水や農業用水として直接目に見える形で関わっているほか、米子平野や弓ヶ浜も日野川によって形成されたといわれています。この日野川を流れる水は、主に流域にある森林などによって涵養されています。

今から約２０年前には、全国各地で水不足や森林の荒廃が話題になっていました。鳥取県西部でも、２０００年１０月の鳥取県西部地震で農業用水路が被災し、木材価格の低迷による森林の管理不足等で荒廃が進行するなどの水や森に関する問題が生じていました。そこで鳥取県日野総合事務所（当時）が主体となって、流域の豊かな環境を守り、次世代に美しい日野川を継承することを目的に「日野川の源流と流域を守る会」の立ち上げ準備が始まり、２００２年４月に設立総会が開催されました。設立から２０年経った現在も約３００名の個人と団体会員によって支えられています。当時は、日野川の源流はどんなところなのか知ってもらうこと、健全な森林をつくるための作業、子どもたちが森や水に親しむための活動を主としていました。

その後、環境保全に関することや流域の素晴らしさを写真で紹介するための活動などが始まりました。２００８年には米子市水道局や日野川河川事務所が中心となり、日野川の自然環境を守り、学び、交流・連携を進めるとともに、子どもたちに引き継ぐようにと「日野川憲章」も制定されました。

日野川源流近く土屋地区に広がる風景

ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの活動を中止したり、規模を縮小して実施せざるをえない状況でしたが、現在は、５類に移行し社会の色々な分野で多くの活動が再開されてきており、当会もまた元のような活動が望まれています。

現在、荒廃した森林については高性能林業機械の普及により森林整備が随分進んでいます。また、日南町に、林業アカデミーが設立され、若者の林業従事者も増え、森林整備については、今後の明るい見通しが立ってきたと思われます。

これからは、鳥取県東部地区から静かに拡大してきているホンシュウジカによる食害、コナラやミズナラが枯れてしまう通称「ナラ枯れ」被害、日野川の魚類が激減する原因となったカワウの食害などの、今起きており、今後拡大するであろう「生態系」に関する問題についても関心を持つ必要があるため、会員の皆さまとともに考えていきたいと思っています。

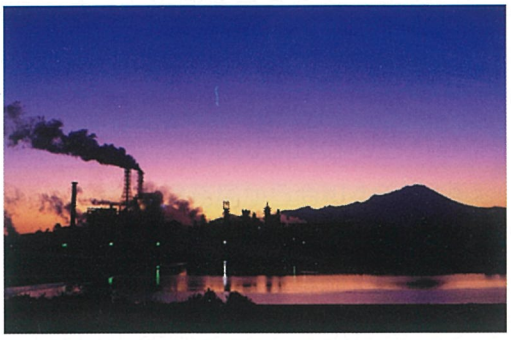
# 日野川フォトコンテスト2022入賞作品紹介

日野川の自然、山、森、里山の風景、流域の人々の生活などを題材に毎年フォトコンテストを開催し、たくさんの応募をいただきました。その中から選ばれた一般部門、スマホ部門それぞれのグランプリ、金賞、銀賞を御紹介いたします。

（「題名」・氏名・場所・応募者のコメント）

## 〈一般部門〉

グランプリ



「秋の暁」藤原 安里紗　米子市（日野川運動公園辺り）

生まれも育ちも米子ですが、カメラを趣味にしてからレンズを通して鳥取の豊かな自然を再認識し魅了されています。

金賞

「求愛の辺り」三戸 律子　日野町（おしどり観察小屋）

あまりに水鳥が多くオシドリのペアを探すのに苦労しました。

銀賞

「水鏡」吉田 源市　（米子市宗像）

水面に鏡のように映る夕焼けと雪の伯耆富士を写したいと祈る気持ちでした。

## 〈スマホ部門〉

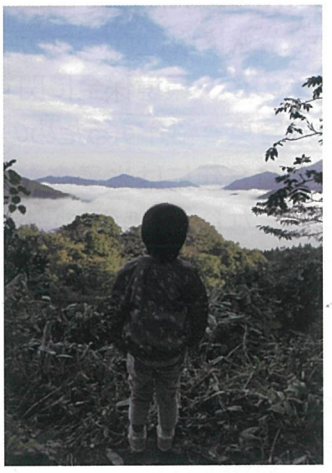
グランプリ

「風神雷神」五百川 和久（米子市古豊千）

日野川堰管理橋から日野川上流に向かって撮影しました。雲の様子や姿が風神雷神図に似ていたためタイトルに使用しました。刻一刻と変化する雲の様子や姿に自然の素晴らしさを感じました。

金賞

「山にも海って
あるんだねぇ」
柳澤 はるか
日野町秋縄（明地峠）



３歳の娘が生まれて初めて見た雲海を『うみ！』と叫んで嬉しそうにずっと見ていた姿に娘の成長を感じるとともに、日野町の誇る雄大な絶景に家族共々感動しました。

銀賞

「夕暮れ時」村川 香織　日吉津村（日野川河口）

日野川河口の夕焼けはかねてより撮ってみたいと思っていました。初めてスマートフォンで撮った１枚は沈む夕陽と米子の町並と釣り人との美しい日野川の風景となり、心に残るフォトとなりました。